

平成29年度
「NGO講演会等助成レポート」

一般財団法人ゆうちょ財団
国際ボランティア支援事業部

NGO海外援助活動助成事業の助成金又は旧国際ボランティア貯金の寄附金の配分を受けているNGOが、学校、地域団体等で国際協力及び国際支援の意識醸成を図るための講演会等を開催し、当該NGOの海外での事業活動状況等を説明する場合に、その経費の一部を助成しております。

概要は次のとおりです。

○助成する金額は、講演会等1回につき所要経費のうち5万円を上限とします。

ただし、助成回数は1団体につき1年1回。

○助成の対象とする団体は、平成25年度から平成29年度にNGO海外援助活動助成事業の助成を受けている団体及び旧国際ボランティア貯金の寄附金の配分を平成22年度から平成26年度に受けている団体です。

○助成の対象となる講演会等は、次のとおりです。

- ・参加者（児童・生徒等を含む）が概ね30人以上見込まれる講演会等であること
- ・平成29年4月から平成30年2月末日までに開催する講演会等であること

○平成29年度は8団体へ助成いたしました。

Index

1	特定非営利活動法人シャプラニール=市民による海外協力の会	1
2	特定非営利活動法人地球市民の会	4
3	特定非営利活動法人ジャパンハート	6
4	特定非営利活動法人国際交流の会とよなか（TIFA）	8
5	特定非営利活動法人エクアドルの子どものための友人の会（SANE）	11
6	特定非営利活動法人国境なき子どもたち	14
7	スリヤールワ スリランカ	16
8	特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド	19
9	アンケート結果	21

特定非営利活動法人シャプラニール=市民による海外協力の会

1. 開催日：平成 29 年 6 月 10 日（土）14 時 00 分～ 16 時 30 分
2. 開催場所：ウェスレーセンター館内、205 号室セミナールーム
3. テーマ：「バングラデシュと日本の子どもの貧困を考える」
4. 講師：①マフザ・パルビン：シャプラニール ダッカ事務所職員
②栗林知絵子：NP0 法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク 理事長
③坂口和隆：特定非営利活動法人日本 NP0 センター職員
5. 参加者：34 名（その他講師 3 名、通訳 1 名、スタッフ 8 名）
6. 内容：講演 ① 「バングラデシュで家事使用人として働く少女について」
講演 ② 「日本の子どもの貧困について」
講演 ③ 「パネルディスカッション：バングラデシュと日本の子どもの貧困を考える」

～ ～

講演会内容

■講演概要

日本、バングラデシュの両国で「子どもの貧困」解決に取り組む 2 団体の活動について紹介し、国を超えて共通する課題やアプローチを見だし、子どもたちが搾取されずに生きていくためには何が必要なのかについてパネルディスカッション形式で議論した。2 団体とも、課題を抱えた子どもへの直接支援だけではなく、子どもの周辺にいる人々、地域、行政、社会へ働きかけることを重要視して活動をしており、その重要性を改めて確認するとともに、参加者がそれぞれの立場からできることを考える機会となった。

(1) 講演①「バングラデシュで家事使用人として働く少女について」

マフザ・パルビン：シャプラニール ダッカ事務所職員

- ・ 自己紹介
- ・ バングラデシュの児童労働
- ・ 家事使用人として働く少女たち
- ・ なぜ少女たちを雇うのか ＜雇用主の気持ち＞
- ・ 娘を働きに出す理由 ＜親の気持ち＞
- ・ 家事使用人として少女たちの労働環境
- ・ シャプラニールの取り組み ＜活動と成果、課題＞
- ・ 今年の取り組み
- ・ 少女たちのストーリー

(2) 講演②「日本の子どもの貧困について」

栗林知絵子：NP0 法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク 理事長

- ・ 自己紹介
- ・ 日本の子どもの貧困の特徴や現状（ケーススタディを交えて）
- ・ 豊島子ども WAKUWAKU ネットワークの取り組みについて（学習塾や子ども食堂など）

(3) 講演③「パネルディスカッション：バングラデシュと日本の子どもの貧困を考える」

コーディネーター：坂口和隆：特定非営利活動法人日本 NPO センター職員

- ・ マフザ氏、栗林氏のお互いの活動についての印象や感想共有
- ・ 行政や地域を巻き込む方法について
- ・ 会場からの質疑応答

■参加者の感想

- ・ バングラデシュ、日本と子どもの未来が明るくなるよう考えさせられ、いつか解決することを願っています。
- ・ シャプラニールの地域を巻き込む活動の仕方が参考になりました。
- ・ 直接話を聞くことで、日本語の文面で見るとよりリアルな問題として捉えることができました。
- ・ 日本国内とバングラデシュ、共通の課題を抱えていることに驚きました。日本の現状を知らないことは恥ずかしいことだと感じました。
- ・ 女性に対する差別は現在進行形なんだと感じました。
- ・ バングラデシュの社会の中で、児童労働への意識を変えていくことが大切だと思いました。
- ・ 実際に起こっている問題や実態を、生の声と共に深く理解することができました。
- ・ 現地の状況、成果、課題が聞けて良かったです。
- ・ 問題があることや困っている人がいることを知ったとき、ただ知ったままではではなく、自分にできることを何か行動に移すことが大切であると学びました。
- ・ 日本とバングラデシュの貧困について知り、貧困という問題が水面下で世界中にあふれていることが衝撃でした。その中でも一人ひとりが自分にできることを考え、行動を起こすことが大切だと感じました。
- ・ マフザさんの話を聞き、深く根付き長く続く児童労働をなくしていくのは、とても時間がかかることだと感じました。しかしあまり関心を持っていないと思っていた企業がこういった問題に対し積極的になっていると知り、今後さらに状況が改善していくことを期待したいと思います。

当財団の NGO 海外援助活動助成事業又は国際ボランティア貯金の寄附金を受けた事業の概要

■支援事業：バングラデシュ・ダッカにおける家事使用人支援プロジェクト

■実施期間：平成 26 年 4 月から平成 27 年 3 月
平成 29 年 4 月から平成 30 年 3 月

■実施地域：バングラデシュ





特定非営利活動法人地球市民の会

1. 開催日：平成29年8月2日（水）11時00分～13時30分
2. 開催場所：佐賀県国際交流プラザ
3. テーマ：「食べるミャンマー！～食から始まる国際理解～」
4. 講師：柴田京子（地球市民の会 ミャンマー駐在員）
5. 参加者：39名（大人14名、子供20名、幼児5名）
6. 内容：第1部 「ミャンマー料理を作ってみよう！」
第2部 「現地駐在員によるミャンマー事業報告」

～ ～

講演会内容

■講演概要

「ミャンマーって、名前は最近よく聞くけれど、どういう国か知らない」。夏休みに親子でミャンマーをより身近に感じてもらうため、第1部のミャンマー料理作りと第2部のおはなし会の2部構成で、国際理解イベントを開催しました。

(1)第1部「ミャンマー料理を作ってみよう！」

ミャンマー人が毎日のように食べているチキンカレーを作りました。調味料の一部はミャンマーで調達したものを使用し、参加者の皆さんは初めて食べる本場の味を楽しんでいました。

(2)第2部「現地駐在員によるミャンマー事業報告」柴田京子（地球市民の会 ミャンマー駐在員）

今回ゆうちょ財団様からの助成によって実施したプロジェクトや、当会がミャンマーで13年以上に渡って続けてきた活動の紹介をしました。子どもでも分かりやすいよう、写真やクイズをたくさん交えながらお話をしました。日本とは全く違う服装や文化、道具、町の様子などを見て、世界の異文化を感じている様子でした。

■参加者の感想

- （大人）・世界には色々な国があることを子供が理解してくれたと思う。
 - ・普段着で農薬をまいている写真を見て驚いた。
- （子供）・ミャンマーでは全学年が同じ教室で勉強していることを始めて知った。
 - ・ガスや電気がいつでも使えるわけではないことが心に残った。

当財団の NGO 海外援助活動助成事業又は国際ボランティア貯金の寄附金を受けた事業の概要

■支援事業：農民の現金収入向上のための村落開発リーダー育成事業の継続と拡大及び施設整備

■実施期間：平成 28 年 4 月から平成 29 年 3 月

■実施地域：ミャンマー連邦共和国シャン州南部タウンジー県



特定非営利活動法人ジャパンハート

1. 開催日：平成 29 年 11 月 12 日（日）
2. 開催場所：大阪市総合生涯学習センター
3. テーマ：「ジャパンハート体験報告会&説明会」
4. 講師：①氏 名 遠藤 俊治 氏（東大阪市立総合病院 消化器外科参事部長）
②氏 名 泉 好美 氏（ジャパンハート長期研修終了生）
5. 参加者：28 名
6. 内容：講演① 「国際医療短期ボランティア活動報告」
講演② 「国際看護長期研修ミャンマー活動報告」

〜〜

講演会内容

■講演概要

特定非営利活動法人ジャパンハートにおける海外医療活動のうち、国際短期ボランティア、国際長期看護研修の参加者による体験報告、ミャンマーワッチェ慈善病院での活動報告を行った。

(1) 講演①「国際短期ボランティア体験報告」

講師名 遠藤 俊治氏（東大阪市立総合病院 消化器外科参事部長）

ミャンマー・カンボジア・ラオスと計 11 回の短期ボランティアに参加。

先入観から、治安の悪さや言葉が通じない、自分が役に立つことはないのではないかと、海外での海外医療支援活動は気になっていたものの、その機会もなく時間が過ぎていた。外科学会で代表吉岡が運営しているジャパンハートのことを知り、同団体の行っている海外での活動に参加したところ、今まで考えていたことが杞憂であるとわかった。活動を行っていく上で現地住民に対し医療を提供すると同時に現地医療者の育成も行う意義を見出した。

(2) 講演②「国際看護長期研修体験報告」

講師名 泉 好美 氏（ジャパンハート長期研修修了生）

国際長期看護研修に参加した動機、また半年間ずつにわたる長崎県対馬市の対馬病院と、ミャンマーザガイン管区のワッチェ慈善病院での現地住民に対する医療活動及び現地医療者への指導などの活動内容を紹介。国際協力・国際支援とは何かを活動を行う中で、丁寧に探究する。自己満足・押しつけの支援ではなく、「本当の意味での支援とは？」を問い続けた活動であったと振り返る。

■参加者の感想

- ・ミャンマーの医療格差の実態を知ることができた
- ・ミャンマーの家族愛・優しさを知り、行ってみたくなった
- ・自分にできることがあれば協力したい
- ・活動に参加したい
- ・ミャンマーの子どもたちの現状がわかった

・大勢の人を救うことへの尊さ

当財団の NGO 海外援助活動助成事業又は国際ボランティア貯金の寄附金を受けた事業の概要

■支援事業：現地住民に対する医療活動・医療専門職に対する医療指導事業[ミャンマー]

■実施期間：平成 28 年 4 月から平成 29 年 3 月

■実施地域：サガイン管区 サガインヒル ワツチェ村

遠藤医師による報告の様子



泉看護師による報告の様子（下 2 枚）



特定非営利活動法人国際交流の会とよなか（T I F A）

1. 開催日：平成29年12月15日（金） 13時30分～15時30分
2. 開催場所：とよなか男女共同参画推進センター「すてっぷ」
3. テーマ：現地NGO代表者達から聞く 「ネパール活動報告会」
4. 講師： ①氏名（Ral Bahadur Karki, College teacher, HANDS staff, sindhul, Nepal）
②氏名（Asharam Adhikari Principal of Elementary School, Sindhuli）
③氏名（Dinesh Adhikari Sindhuri District officer）
④氏名（Asha Adhikari.. quilt leader, dudhauri, Sindhuli, Nepal）
⑤氏名（Pabitra Pariyar） quilt leader, Dudhauri, Sindhuli, Nepal）
⑥氏名（Pancha Shrestha） Knit Leader (Bungamati, Patan, Nepal)
5. 参加者： 43 名
6. 内容： 講演① 「HANDS の活動紹介」
講演② 「ネパールと日本の小学校の状況・ネパールにおける課題」
講演③ 「ネパールの地方行政について・日本の状況を見ての課題」
講演④ 「ゆうちょ財団の助成を受けて実施しているキルト作業者の状況」
講演⑤ 「キルト作業状況」
講演⑥ 「ネパール地震後の復興支援で始めたニット事業」
講演⑦ 「今年度ゆうちょ財団助成事業の進捗状況」

講演会内容

■講演概要

*ゆうちょ財団からの支援が、現地でどう生かされているか？ネパールより招へいした6名の現地リーダー達から、直接話を聞き、日本へ来て学んだことを聞く。

*当会の担当者からの支援活動報告。

- (1) 講演①「HANDS の活動紹介」講師名(Ral Bahadur Karki, College teacher, HANDS staff)

昼間は HANDS のスタッフとして、ネパール・ドダウリ村の人達の生活改善のため、農作物・畜産・衛生・医療・教育等の活動をしている。TIFA のカウンターパートとして、20年余り支援を受けることが出来、診療所は多くの人に役立ち、特に女性の出産時など助かっている。村の生活は随分よくなってきているので、大変感謝している。

- (2) 講演②「ネパールと日本の小学校の状況・ネパールにおける課題」

講師名（Asharam Adhikari 小学校校長・HANDS スタッフ）

日本から長年支援を受けているが、その日本はどのようにして発展したのか？この目で見たくて、TIFA に懇願して、来日を実現することが出来てうれしい。日本で小学校、中学校、高校を訪問して、校内の様子、子どもたちの状況・・・などを見学出来て、たくさん学ぶことが出来た。

政府の政策が進まないため、日本と比べてずいぶん遅れているが、ここで見たことを少しずつでも参考にして、学校教育を改善する努力をしたい。

(3) 講演③「ネパールのシンズリ郡、ドダウリ村などの状況とこれから」

講師名 (Dinesh Adhikari Sindhuri District officer)

シンズリ郡庁の役人として20年ほど働いてきたが、ネパールでは、国の役人の命令どおりにしなければならない、申請してもなかなか回答が来なくて未だに、震災復興が進んでいない。数日前に行われた選挙で、少し前に進むことを願っている。日本では、政治にあまり関心がないように思うが、ネパールでは何度も選挙があり、選挙活動も活発だ。発展した日本の様子をみんなに知らせ、ネパールの発展のために働きたい。TIFAの支援のおかげで、村は随分発展してきて、女性たちも元気になっているが、これからも指導・支援をお願いしたい。

(4) 講演④ 「ゆうちょ財団の助成を受けて実施しているキルト作成作業者の状況」

講師名 (Asha Adhikari) キルト工芸リーダー

2014年、キルト専門家から指導を受けて開始したキルトプログラムは現在13～15名の女性、主に母親たちが、朝の家事を済ませた後、トレーニングセンターへ来て、11時から4時まで作業を続けている。キルトの作成量に従い、収入を得ることが出来るので、みんな頑張っている。

(5) 講演⑤ 「キルト作業状況」講師名 (Pabitra Pariyar quilt leader)

キルター達は、収入を得るため頑張って作っている。みんなキルトはとても楽しいといって居る。作品を持ってきているので、見て、批評をして、気に入れば買い上げてほしい。

今回皆さんの意見を聞いて、一層よいものが出来るようにしたい。

(6) 講演⑥ 「ネパール地震後の復興支援で始めたニット事業」

講師名 (Pancha Shrestha, Knit Leader Bathi Schresta)

2015年に起きたネパール大地震からの復興支援のために始めたニット製品の制作は、今回作業者たちが作った手袋、帽子、レッグウォーマー、ベストなどを持参した。

皆さんからの批評を聞きたいし、出来れば、購入していただきたい。今回の機会に新しい技術を学んで、より良いものを作れるようにしたい。

(7) 講演⑦ 「今年度ゆうちょ財団助成事業の進捗状況」講師名 (葛西 芙紗)

ゆうちょ財団からの助成事業「村の女性の自立支援とともに村人・子どもの栄養改善」の進捗状況について

4年前に始めた「キルト工芸」は成果を上げて、今回来日したリーダーたちは、たくさんの作品を持参してきた。技術をもう一段進歩させるために、今回、日本へ招へいた。

今年度は、子どもの栄養改善のため、小学校での給食・衛生指導をしており、順調に進んでいる。

■参加者の感想

* ドダウリキルターの生の声が聞けて現状がよく分かった。富の分配の平等がとても大事だと思った。

* 一人でも多くの人に知ってほしいと思います。

* ネパールの人たちの話が聞けて楽しかったです。通訳も落ち着いていてとても良かったです。

ネパールの社会のより良き発展を祈っています。

* 協力者のお金が正当に使われていることがよくわかりました。

* 支援するのは期限付きで。エンドレスだといつまでも他国をあてにするのでは・・・

＊このような活動は素晴らしいと思いますが、やはり当該国の政治システムの変革が必要だと感じます。そのためには、偏りのない教育が普及してほしいです。

＊厳しい環境にある人々（国）のことを直接聞くことができ良かった。

当財団のNGO 海外援助活動助成事業又は国際ボランティア貯金の寄附金を受けた事業の概要

■支援事業：「村の女性の自立支援とともに村人・子どもの栄養改善」

■実施期間：平成29年4月から平成30年3月

■実施地域：ネパール・ジャナクプール県シンズリ郡ドダウリ村



特定非営利活動法人エクアドルの子どものための友人の会

1. 開催日：平成30年2月10日（土） 13時～17時
2. 開催場所：AKAI FACTORY ギャラリースペース
3. テーマ：活動報告会&パネルディスカッション「農業と食と文化」
Mirei コンサート「土からのメッセージ」
4. 講師：①代表理事 杉田優子
②リエラ麻子農村開発研究科、飯能地域農業従事者
5. 参加者：30名
6. 内容：講演① 学校菜園食と安全
講演② パネルディスカッション「農と食」
講演③ 歌のメッセージ「土からのメッセージ」

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

講演会内容

■講演概要

(1)講演① 学校菜園 食と安全

講師：杉田優子（青山学院大学、自由の森学園講師、国際関係学修士 SANE プロジェクトマネージャー）

SANE 学校菜園の起こりと、「栄養改善事業」に移行する経過報告。学校給食の現状と事業効果を説明。現在、提案中の JICA 草の根技術協力支援型事業の説明。

(2)講演②パネルディスカッション「農と食」

パネラー：杉田優子、リエラ・麻子（アールディアイ所属、プロジェクト農業・農村開発普及員）
黒岩晴子（給食、栄養担当）、北村行範（地域農業研究家・農家）、荒井知子（栄養士）、Mirei（歌手）

事業報告をもとに、各分野から意見を出し合い、それをもとに意見交流をした。主な意見は以下の通りです。

- ・現地において農業規模と換金作物の拡大は伝統作物の衰退と土壌汚染の心配がある
- ・エクアドルの気候に合い、子どもたちの栄養改善に効果のある作物はなにか
- ・大豆栽培のエクアドルでの可能性
- ・高い栄養価を持つアンデス伝統作物の重要性と、その活用
- ・家庭での食事の実態が重要である

(3)講演③歌のメッセージ「土からのメッセージ」講師：Mi rei（飯能在住歌手）

歌手の観点から「土からのメッセージ」をテーマに命の誕生にちなんだ5曲の歌と話をコンサートとして行いました。

■参加者の感想

・開発途上国の現状を通して日本の食や農業について考え直す機会になりました。食や農というキーワードは先進国、途上国問わず、世界中共通のテーマ課題であるため、国の垣根を越えて1人

一人ができることをやってみればよいと思いました。

・経験に裏打ちされたすてきな報告でした。“長い努力が必要”と教えていただきました。

当財団の NGO 海外援助活動助成事業又は国際ボランティア貯金の寄附金を受けた事業の概要

■支援事業：学校菜園生産物による給食改善事業

■実施期間：平成 27 年 4 月から平成 29 年 3 月

■実施地域：エクアドル共和国ピチンチャ県カヤンベ郡





特定非営利活動法人国境なき子どもたち

1. 開催日：平成 30 年 2 月 11 日（日） 15 時 00 分～ 16 時 45 分
2. 開催場所：南部労政会館第 5 会議室
3. テーマ：「2017 年友情のレポーター フィリピン取材報告会」
4. 講師：①柳田 峰雄（千葉県袖ヶ浦市立蔵波中学校／2017 年友情のレポーター）
②山邊 鈴（長崎県諫早高等学校付属中学校／2017 年友情のレポーター）
③安田 菜津紀（フォトジャーナリスト）
5. 参加者： 89 名
6. 内容： 講演 「2017 年友情のレポーター フィリピン取材報告会」
ーフィリピンの友だちに教えてもらった、本当に大切なことー

～ ～

講演会内容

■講演概要

2017 年の夏休み、柳田峰雄くん（中 1／千葉県在住）と山邊鈴さん（中 3／長崎県在住）が KnK の「友情のレポーター」としてフィリピンを訪れ、青少年鑑別所や路上、スラム地域など、さまざまな境遇に生きる同世代の子どもたちを取材しました。本報告会では、レポーターの選考を務めたジャーナリストの堀潤さんを司会に迎え、同じく選考を務めフィリピン取材に同行したフォトジャーナリストの安田菜津紀さんとレポーターの 2 人が写真と映像を交えて現地報告を行いました。

三連休の中日にも関わらず、ご家族連れや小中高校生、上は 70 代の方々まで幅広い層の方にご参加いただき、終盤の質疑応答では活発な意見が飛び交いました。

【プログラム】

- 15：00 開始 （司会：堀潤さん）
国境なき子どもたち（KnK）と「友情のレポーター」について／安田菜津紀さん
- 15：20 フィリピン取材映像上映
- 15：30 フィリピン取材報告／友情のレポーター
・フィリピン概況・取材日程・青少年鑑別所・ストリートチルドレン・スラム地域
・「若者の家」・ジュンジュン（KnK スタッフ）・帰国後の活動・まとめ

パヤタスの町に着いて車の窓を開けた瞬間、思わず鼻を覆いたくなるほどの生ごみが腐った臭いが漂ってきました。ごみ山まではまだ距離があるはずなのに。と戸惑っていると、窓の外で薄汚れた水で洗濯をしている子どもを見つけました。この人にとっては、洋服や家からこの臭いがすることなんて普通のことなのです。臭いによる健康被害や嗅覚の麻痺なども深刻だとも聞きました。パヤタスに住む人の多くは、ごみ山からアルミなどの使えるものを拾って生計を立てています。彼らにとってここは宝の山なのです。（一部抜粋）

- 16：10 フリートーク／友情のレポーター、安田菜津紀さん、堀潤さん
- 16：25 質疑応答
- 16：45 終了

■参加者の感想

- ・貧困と犯罪はつながっているということが理解できた。全ての子どもに安全と教育が必要。
- ・現地の今起きている事実を知ることができ、大変勉強になりました。
- ・リンさん、ネオさんの大変素直な“気持ち”に心打たれました。それだけでなく世界中の子どもへ想いを馳せていきたい。

当財団のNGO 海外援助活動助成事業又は国際ボランティア貯金の寄附金を受けた事業の概要

■支援事業：スラム地域における教育支援・子ども保護事業

■実施期間：平成29年4月から平成30年3月

■実施地域：フィリピン共和国マニラ首都圏内カロオカン・ノース市に位置するバゴンシーラン地区及パヤタス地区



友情のレポーター 山邊 鈴さん（左）
同 柳田 峰雄くん（右）



三連休中日にも関わらず、多くのご参加があった



会場に展示したパネルや新聞掲載紙



安田 菜津紀さん（中央）、司会の堀 潤さん（右）

※写真提供：株式会社 GARDEN

スリヤールワ スリランカ

1. 開催日：平成 30 年 2 月 20 日（火） 14 時 00 分～16 時 00 分
2. 開催場所：名古屋国際センタービル 3 階 第 2 研修室
- 3 テーマ：もっと知ろうスリランカのこと！！ 「国際協力報告会」
4. 講師：スリヤールワ スリランカ 代表 服部和子
5. 参加者：70 名
6. 内容：講演① スリランカの概要
 - ②会の設立と託児所建設、運営に至る活動の経緯
 - ③「平成 28 年度 NGO 海外援助活動助成事業」
 - ④「平成 29 年度 NGO 海外援助活動助成事業」
 - ⑤その他、滞在したからこそ知り得た情報等
 - ⑥日本国内での活動
 - ⑦民族衣装試着体験
 - ⑧交流会&意見交換会（スリランカの紅茶とクッキー）

講演会内容

■講演概要

会の設立、2004 年 12 月 26 日に起きたスマトラ沖地震の被災者支援から復興支援として、託児所の建設、運営に至った活動の経緯。当初は国際ボランティア貯金の配分金を使わせていただいた。その後は私たちのような資金力に乏しい小さい会においては、自力で成しえない建物や施設の修繕、修復をゆうちょ財団の助成事業でおこなうことができた。おかげで子どもたちはよりよい環境の中で幼児教育を受けることが出来るようになった。また親の教育に対する理解が深まるとともに、地域住民にとって託児所は大切なコミュニティの場にもなり、日本からの支援に親しみと感謝の念を抱くようになってきた。永年の支援と先生の努力もあり、地域でナンバー 1 といわれるようになり、去年の卒園式では 14 歳の卒園生 2 人がシンハラ語と英語で堂々と司会をした。地道に幼児教育に取り組んできた成果であり、「継続は力なり」を実感させられた。

当初 25 人の 3、4 歳児からはじまった託児所の幼児教育は、現在約 100 人となった。

私たちにとって「ゆうちょ財団」の助成事業は、いつも助けて頂き、支えていただいていた大変大きな意義ある存在です。

講演 服部和子 NGO スリヤールワ スリランカ代表

①スリランカの概要について簡単に説明

②会の設立と託児所建設、運営に至る活動の経緯

1996 年、UNCRD からスリランカに派遣され、その時、野球用具支援要請を受けたのを機に、「NGO スリヤールワ スリランカ」を設立。支援者、現地の要望もあり「農村女性の自立のための職業訓練所」建設等から、2004 年 12 月 26 日に起きたスマトラ沖地震の津波被災者のための復興支援として、国際ボランティア貯金の配分金で託児所を建設。

25 人からのスタートだったが、現在は約 100 人の子どもたちの、幼児教育をおこなっている。

③「平成 28 年度 NGO 海外援助活動助成事業」

託児所の前の道路に永年、政府が排水溝を造らないため、少しの雨でも、託児所内に流れ込み、

トイレは中からあふれてくる状態を改善するために、敷地内に排水溝を造り、トイレは床を高くした。

もともとジャングルだったところで、教室の建物のバックヤードには、時折、象や水牛、孔雀が現れたりした。特に象の侵入を防ぐための柵を設置した。

またこどもにとってはじめての、デンタル、メディカルチェックを行った。ひとりずつ、ノートに所見を記入。医師は「こういうことにかかわれることがうれしい」と、休憩も取らず、朝9時から午後3時ごろまで。親も子も楽しそうに順番待ちしているのには、少々驚かされた。それだけ貴重な機会だったということの現れだったと思う。

④「平成 29 年度 NGO 海外援助活動助成事業」

隣りの土地の境界にあるブロック塀（約 50m）が倒壊の恐れあり、撤去と新設工事。

去年設置した屋根が、隣のヤシの木から猿の軍団がジャンプして遊びに来て、でこぼこになったり、穴が開いたので修復。

去年好評だったデンタル、メディカルチェック。デンタルは今回医師不在。直前に水が全面ストップ。私と先生たちと、お互いに子どもたちに楽しく指導できた。

⑤その他、滞在したからこそ知り得た情報等

スマトラ沖地震の津波被災者支援に、アメリカ軍、イタリアがいち早く活躍。

「Japan」、「日本」は見つけられず、スリランカのひとたちは、日本大好きなのに本当に残念な思いをしたこと。支援はフェイス to フェイスでないと。会は小さくとも私たちのような草の根の地道な活動が大切であることを実感。

30 年近く続いた内戦を終わらせた当時の大統領ラジャパクサさんの英断。

終結時、現地に滞在していたので、その時のスリランカ国民の様子等。

野球用具支援をしたセナナヤカ カレッジの生徒、先生 8 人が自爆テロに巻き込まれて死亡等。

⑥日本国内での活動

私たちの活動を知り、スリランカを知り、興味を持っていただくために、講演、イベントへの参加老人保健施設の慰問で民族舞踊の披露等を積極的に行っていることの紹介。

⑦民族衣装試着体験

日常的にあまり見ることのない民族衣装、インディアンサリー、キャンディアンサリー、サロン等、男女問わず、みなさまに楽しんでいただきました。

⑧交流会&意見交換会（スリランカの紅茶とクッキー）

スリランカのミルクティ、ブレンティ、クッキーを味わっていただきながら、お互いの交流、意見交換を楽しんでいただいた。

■参加者の感想

- ① なぜ、「日本から遠いスリランカへのボランティアか」よく解った。
- ② 長い間にわたり活動をしていることがよくわかりました。
- ③ 大変興味深いお話しでした。ありがとうございました。
- ④ ボランティア活動を幅広くなさって見える姿に感動しました。どういうきっかけでこういう活動をはじめられたのか、知りたいと思いました。
- ⑤ 貴重なお話が聞けた。
- ⑥ 一般の方々に聞かせたかった。
- ⑦ スリランカでどのような問題が起こっていたのかなどを知ることができ、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ⑧ スリランカの状態がよくわかった。

- ⑨ ありがとうございます。もっと理解をしたいと思います。
- ⑩ 服部さんの積極性に感心しました。
- ⑪ お誘いいただきありがとうございます。貴団体の活動については少し聞いておりましたので、本日、参加することを決めました。ありがとうございます。
- ⑫ 以前スリランカへ旅行した日々を思い出しました。スリランカのための努力に感動しました。
- ⑬ 今までは知らなかった、知らされなかったスリランカの文化を知り、感謝です。同じ仏教の国で交流を願っています。
- ⑭ いろいろな力が合わさって素晴らしい支援をされていて感心と感動しました。
- ⑮ みなさまのご苦勞を感じました。
- ⑯ もう少し実態が分かる様子が知りたい。
- ⑰ もう少し趣旨を説明が欲しかった。
- ⑱ 多くの人が興味深く参加。モニターにも集中し、交流の場でのクッキー、紅茶そしてサリーの試着。和やかな会場でした。感謝。
- ⑲ 交流会でサリー体験などもあって、文化体験も楽しめました。

当財団の NGO 海外援助活動助成事業又は国際ボランティア貯金の寄附金を受けた事業の概要

- 支援事業：津波被害者のための託児所の修繕
- 実施期間：平成 28 年 4 月から平成 29 年 3 月
- 実施地域：スリランカ ハンバントタ ウェリガッタ



服部代表の講演と会場の様子



交流会&意見交換会の様子

特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド

1. 開催日：平成 30 年 2 月 24 日（土） 14 時 00 分～15 時 30 分
2. 開催場所：NATULUCK 飯田橋東口 駅前店 2 階中会議室（千代田区飯田橋 4-8-6 日産ビル）
3. テーマ：「ハコモノ支援で終わらせないコミュニティづくりのカギ～ベナンの学校建設の事例から」
4. 講師：①佐藤 真美（ハンガー・フリー・ワールド 海外事業マネジャー・地域開発担当）
②久野 千尋（ハンガー・フリー・ワールド 海外事業インターン）
5. 参加者： 13 名
6. 内容： 建設して終わりの「ハコモノ支援」でなく、地域住民が自分たちの力で学校を運営できるようにするための支援とは？
飢餓のない世界をつくるために活動する国際協力 NGO ハンガー・フリー・ワールド（HFW）が西アフリカ・ベナンで行った学校建設事業をもとに、飢餓のない地域づくりについて報告します。

〜〜

講演会内容

■講演概要

HFW はベナンの農村地域で、2016 年度に中高一貫校の校舎建設支援事業を行いました。一般的に「ハコモノ支援」と呼ばれる建物建設。建設後、住民による持続可能な運用ができるかどうか、事業の成否を左右します。HFW は、地域の住民にどのように働きかけ、「自分たちの学校」という意識を持ってもらえたのでしょうか。また、その意識が、HFW がめざす飢餓のない地域づくりに、どんな意味を持ち、どのような成果につながっているのでしょうか？ 地域住民を巻き込む学校運営が、教育環境面のみにとどまらずどう発展していったのか、建設して終わりの「ハコモノ支援」でない、地域住民の自立につながる事業のあり方を報告します。

- (1) 講演①「ハコモノ支援で終わらせないコミュニティづくりのカギ～ベナンの学校建設の事例から」佐藤 真美（HFW 海外事業マネジャー・地域開発担当）
（内容については、添付 PPT 発表資料参照）

- (2) 講演②：佐藤と HFW 海外事業インターン久野によるトーク・セッション

1 月にベナン事業地を視察したインターン久野と職員佐藤によるトーク・セッション。視察で印象に残ったこと、地域の人々や HFW ベナン職員との対話を通して感じたこと、疑問に思ったことをもとに、NGO と行政の役割、住民の自立を促すための働きかけ、効果的な事業運営のあり方、事業地撤退の見通し等について、意見交換を行いました。

■参加者の感想

- ・どのように段階を踏んでこのような支援が行われるのか知らなかったのが、とても貴重でした。ありがとうございます。
- ・途上国支援の活動からしばらく離れており、個人的に内容が楽しめるか不安でしたが、プレゼン

の内容やトーク調で話す形式が面白かった。

国際ボランティア貯金の配分事業又はN G O海外援助活動助成事業の概要

■支援事業：中高一貫校の校舎基礎・1階部分4教室の増築

■実施期間：平成28年4月から平成29年3月

■実施地域：ベナン共和国アトランティック県ゼ郡ベト村



平成 29 年度 講演会助成のアンケート集計結果報告書①

(アンケート対象団体：平成 29 年 4 月から平成 29 年 10 月に講演会を実施した団体)

【全体:46 名回答】

Q1:開発途上国への支援については、国同士が行っているほかに、本日の講演会等のようにボランティア団体 (NGO) が住民等を対象とした支援・援助を行っていることを知っていましたか。

回 答 内 容		回答数	%
1	知っていた	41	89%
2	知らなかった	5	11%
3	未回答	0	0%

Q2:本日の講演の事業は「NGO 海外援助活動助成事業」の助成金または「国際ボランティア貯金」の寄附金の配分を受けて実施されましたが、事業内容について理解できましたか。

回 答 内 容		回答数	%
1	よく理解できた	28	61%
2	まあ理解できた	14	30%
3	理解できなかった	1	2%
4	未回答	3	7%

Q3:今後もいろいろなボランティア団体が開発途上国の住民等へ支援・援助することは必要だと思いますか。

回 答 内 容		回答数	%
1	必要だと思う	46	100%
2	国同士で行うだけで十分	0	0%
3	分からない	0	0%
4	未回答	0	0%

Q4:ボランティア団体は助成を受けて活動している話しをしました、今後も寄附や助成によりボランティア団体を支援する制度は必要だと思いますか。

回 答 内 容		回答数	%
1	とても必要だと思った	38	83%
2	まあ必要だと思う	8	17%
3	特に思わない	0	0%
4	未回答	0	0%

Q5:今日の講演を聞いて、自分も寄附をしたいと思いましたか。

回 答 内 容		回答数	%
1	したいと思った	30	65%
2	特に思わなかった	4	9%
3	すでにしている	12	26%
4	未回答	0	0%

Q6: 今日の講演を聞いて、ボランティア活動に参加してみたいと思いましたか。

回 答 内 容		回答数	%
1	したいと思った	23	50%
2	特に思わなかった	3	7%
3	すでにしている	20	43%
4	未回答	0	0%

年代別	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	未回答
	9%	15%	15%	15%	33%	11%	2%	2%

男女比	男性	女性	未回答
	26%	70%	4%

【講演会の感想（抜粋）】

- ・ バングラデシュ、日本と子どもの未来が明るくなるよう考えさせられ、いつか解決することを願っています。
- ・ シャプラニールの地域を巻き込む活動の仕方が参考になりました。
- ・ 直接話を聞くことで、日本語の文面で見るとよりリアルな問題として捉えることができました。
- ・ 女性に対する差別は現在進行形なんだと感じました。
- ・ バングラデシュの社会の中で、児童労働への意識を変えていくことが大切だと思いました。
- ・ 実際に起こっている問題や実態を、生の声と共に深く理解することができました。
- ・ 貴重なお話をありがとうございました。
- ・ 娘がミャンマーについて少しでも理解してくれたようです。
- ・ ミャンマーでの活動、いつもフェイスブックで拝見しています。
- ・ 普段着で農薬をまいていてびっくりした。

平成 29 年度 講演会助成のアンケート集計結果報告書②

(アンケート対象団体：平成 29 年 10 月以降に講演会を実施した団体)

【全体:163 名回答】

Q1：開発途上国への支援については、国同士が行っているほかに、本日の講演会等のようにボランティア団体（N G O）が住民等を対象とした支援・援助を行っていることを知っていましたか。

回 答 内 容		回答数	%
1	知っていた	122	75%
2	知らなかった	40	25%
3	未回答	1	1%

Q2：今日の講演を聞いて、内容について理解できましたか。

回 答 内 容		回答数	%
1	よく理解できた	102	63%
2	まあ理解できた	55	34%
3	理解できなかった	1	1%
4	未回答	5	3%

Q3：今後もいろいろなボランティア団体が開発途上国の住民等へ支援・援助することは必要だと思いますか。

回 答 内 容		回答数	%
1	必要だと思う	157	96%
2	国同士で行うだけで十分	0	0%
3	分からない	3	2%
4	未回答	3	2%

Q4：今日の講演を聞いて、また「現地からの報告」を聞いてみたいと思いましたか。

回 答 内 容		回答数	%
1	聞きたいと思う	140	86%
2	少し思う	15	9%
3	全く思わない	1	1%
4	未回答	7	4%

Q5：今日の講演を聞いて、ボランティア活動に参加してみたいと思いましたか。

回 答 内 容		回答数	%
1	すでにしている	62	38%
2	したいと思う	74	45%
3	特に思わない	16	10%
4	未回答	11	7%

Q6：今後もボランティア団体のこのような講演会を支援する助成活動事業は必要だと思いましたか。

回 答 内 容		回答数	%
1	とても必要だと思う	113	69%
2	必要だと思う	44	27%
3	特に思わない	1	1%
4	未回答	5	3%

年代別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	未回答
	10%	13%	7%	14%	12%	17%	23%	2%

男女比	男性	女性	未回答
	34%	60%	6%

【講演会の感想（抜粋）】

- ・以前スリランカへ旅行した日々を思い出しました。スリランカのための努力に感動しました。
- ・途上国支援の活動からしばらく離れており、個人的に内容が楽しめるか不安でしたが、プレゼンの内容やトーク調で話す形式が面白かった。
- ・どのように段階を踏んでこのような支援が行われるのか知らなかったのも、とても貴重でした。ありがとうございます。
- ・中学生のお二人がきちょうな経験をされ、今後の人生にも役立つと思います。友情レポーターという経験は良い機会だったと思います。
- ・経験に裏打ちされた素敵な報告でした。“長い努力が必要”と教えていただきました。
- ・このような活動は素晴らしいと思いますが、やはり当該国の政治システムの変革が必要だと感じる。
- ・現地の様子や仕事の内容を聞くことができた。自分にもできることがあると思う。